

文化庁日本語教育大会パネルディスカッション
「標準的なカリキュラム案の可能性」

現場・連携, システム

～現場の取組みを支える仕組みづくり～



平成22年8月27日 橋本 康男

はじめに

■ これまでの経験

- 県庁職員，商社出向（1年），シンガポール駐在（3年）
国際交流財団出向（2年），広島大学転職（4年余），
広大辞職・県庁復帰（平成17年）

（広島大学・地域貢献研究）

「異文化を背景とする子どもたちへの教育支援に関する
研究 ～多様性を受け入れる活力ある社会をめざして～」

■ 今，国際課長として

- 海外人材の活躍環境づくり（多様性の力）
 - 留学生の活躍支援組織と多文化共生社会づくり
 - 全市町に，外国人相談窓口と日本語学習支援窓口

※ 本日の発言は個人的な意見です。

発言要旨

「標準的なカリキュラム案」が活かされる環境づくり

1. 現場

現場の課題を組織の課題にそして社会の課題に

- 現場で煮詰まらないために

2. 連携

行政，大学，ボランティア，各種団体などの連携

- 人と組織をつなぎ，個々の取り組みを支えるために

3. システム

組織的・継続的な取り組みのシステムづくり

- 地域の取り組みを支える社会の仕組みづくりのために

現場

■ 現場で煮詰まらない

- 半径数メートルの壁で煮詰まらないために
- 組織としての取組み, 組織と組織の連携と,
- 社会としての取組みへ

☆ 現場の課題を組織の課題にそして社会の課題に

■ 現場から社会への情報発信

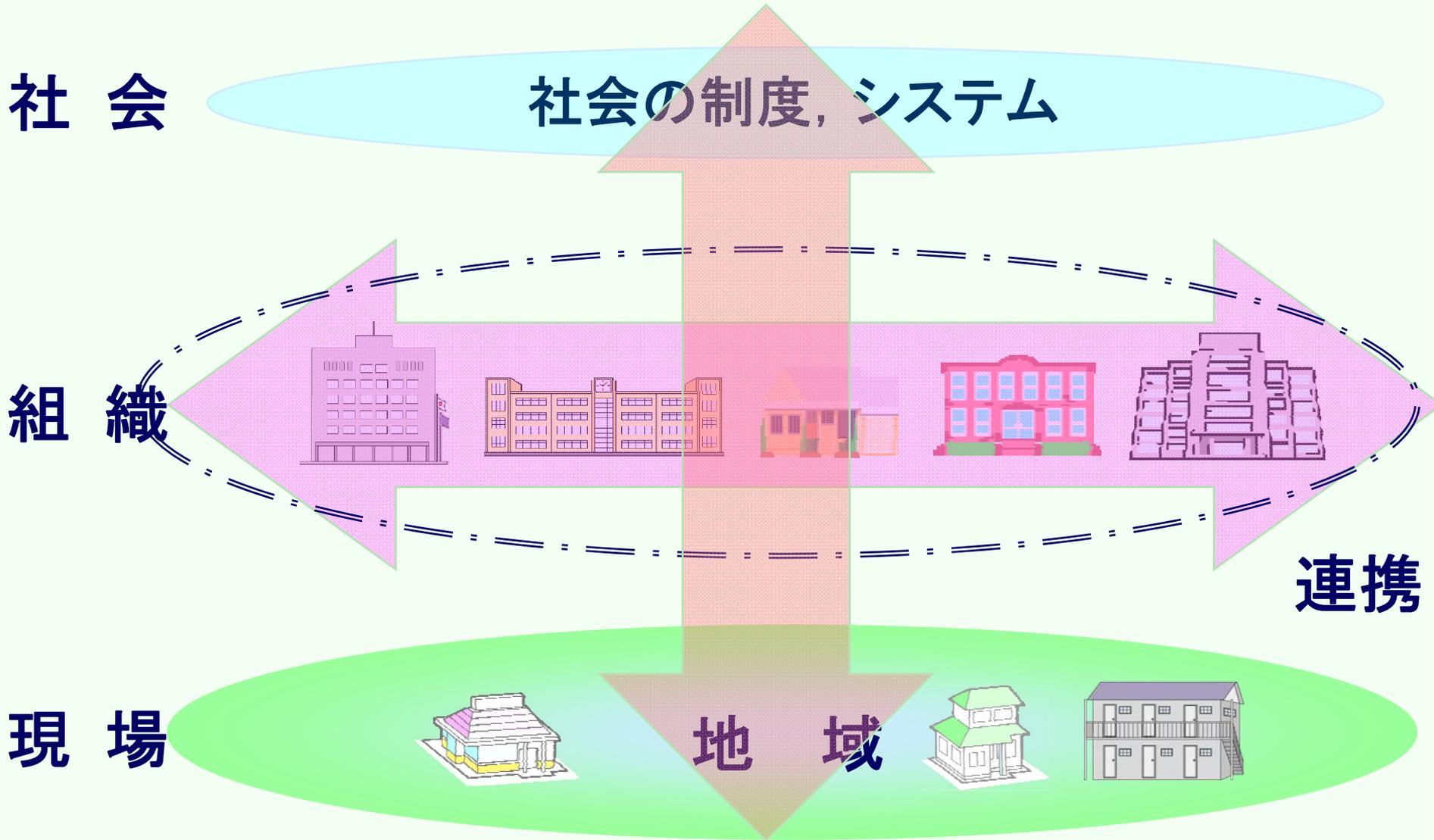
- 現場の状況を伝えていく努力と仕組みづくり
- 知らないことは存在しないこと

連 携

- **現場レベル，組織レベルでの横の連携**
 - 日本語教師・日本語学習支援者同士の連携
 - 日本語学習支援者，日本語教育専門家，大学，行政，公的団体，NPO，企業などの連携
- **ひろしま多文化共生連絡協議会**
 - 市町，県，入管，労働局，関係団体，NPOなど
 - 市町「外国人相談窓口」「日本語学習支援窓口」
 - 連携の会議と研修会（年7回）

「現場」と「連携」

～縦方向の視点切替と横方向の視点拡大～



社会システムづくり

「現場」と「連携」の視点での社会の仕組みづくり

- コーディネーター（つなぎ役）
 - 社会の仕組みづくりの幅広い視点を持ち、
 - 現場で頑張っている人を応援しその力を活かす
- （コーディネーターの支援）
- 現場研究，人材育成，現場支援
 - 現場事例の収集発信，研修，アドバイザー等
 - 現場実践と研究をつなぐ
- それを担うナショナルセンター機能
 - 全国的な仕組整備がカリキュラム案を活かす

まとめ

- **社会的な取り組みに**
 - 現場・組織・社会，連携，社会システムづくり
- **標準的なカリキュラム案の活用**
 - 組織的・体系的な取り組みへの標準化ツール
 - 実践での活用の中での発展
 - 全国的な仕組みづくり
- **日本語学習支援と地域づくりの基本理念**
 - なぜ必要なのか，どんな地域をめざすのか
 - 多様性を認め受入れ尊重し，活力ある地域へ
⇒モチベーション

